

大阪 不安残るも越年備え徐々に落ち着きも

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として弱含み。東京製鉄の需給不安後退によって、先々への不透明感に残りつつも、ここまでの急落展開とは対照的に荷動きに殺到感が見られないなか、来月には越年在庫の確保も迫られるとあって、そろそろ市況落ち着き先を予測する声が出始めている。同地区電炉のH2実勢値は3万1000~3万2000円、新断バラ同3万7000~3万7500円(一部上値3万8500円)、鋼ダライ粉バラ同2万9000~3万円見当で推移している。

地区内では東京製鉄岡山工場の下げ改定に大半がほぼ足並みを揃える格好となり、H2以下についてはすでに5,000円の下げ幅に達するなかで、各社、下級ヘビーを中心に在庫レベルが高く、需要は上向く気配にない。また、今回の値下げを主導してきた東京製鉄九州工場では先週にロシア産スクラップの入着のほか、価格差を背景に、内航便が取り込めていることが伝えられ、岡山工場も一時期に比べて陸上入荷も回復し、今週に

はロシア玉到着が有力視されているため、「東京製鉄岡山、九州ともに需給への不安はない。全国的に入荷増の期待できやすい月末も控え、下振れ懸念は残っている」(商社)との声が聞かれる。

一方、ここまでの一連の下げ改定に対して、電炉側が予想するほど入荷が殺到しているわけではないようだ。足元に関しては、入荷面の不安はないにせよ、来月には越年在庫の確保を迫られるとあって、「値下げほど需要が落ち込んでいるわけではない」(ヤード業者筋)と指摘もあり、これまでの下げ足の早さによって国際競争力を取り戻すなかで、11月後半、12月前半に底入れを迎えた際の荷動き悪化を想定する必要性もあるだけに、「他地域に比べての価格レベルの低さが後々の入荷に悪影響を及ぼすことも考えられる。下げピッチの鈍化含め、徐々に底値を模索する動きとなってくるのでは」(同)との見方も聞かれる。

九州山口 11月鉄スクラップ購入量は10月と同等の28.9万ト

本紙が推計した九州・山口地区電炉及び高炉の11月鉄スクラップ購入予定量は10月比0.1%(200ト)微増の28万9000トとなりそうだ。

購入内訳は山口地区電炉(2社)が10月と同等の9万2000トと10月の入荷増に関係なく、一定の引き合いを維持する。また、九州地区の高炉、電炉合わせた購入量は前月比0.1%(200ト)増の19万7000トと電炉が10月の入荷増による在庫急増を受け、購入量を抑制する動きが聞かれつつも、高炉が電炉需要の減少をカバーすることで、前月並みの購入水準にとどまるようだ。

一方、九州・山口地区合わせた11月粗鋼生産予定量は3ヶ月連続での20万ト台が予定されつつも、10月比では1.5%(3,200ト)減の21万5200トへ減少する見込みだ。内訳は山口地区が10月比2.9%(2,500ト)減の8万2500ト、九州地区も13万2700トと同比0.5%(700ト)微減と

なる。

月初在庫は山口地区が同比26.9%(7,000ト)増の3万3000ト、九州地区も同比26.0%(1万3100ト)増の6万4400トとともに大幅に増加している。10月は東京製鉄九州工場が国内最高値を付けたと同時に値頃感も台頭し、域内電炉とも総じて高い入荷量となったことが在庫押し上げに寄与したようだ。

九州・山口地区電炉・高炉の鉄スクラップ需給 (単位:ト)

	粗鋼生産	国内分 スクラップ	譲 スクラップ	スクラップ 在庫
山口地区	82,500	92,000	0	33,000
九州地区	132,700	197,000	3,400	64,400
18年11月合計	215,200	289,000	3,400	97,400
山口地区	85,000	92,000	0	26,000
九州地区	133,400	196,800	3,300	51,300
18年10月合計	218,400	288,800	3,300	77,300
山口地区	82,500	88,500	0	28,500
九州地区	131,400	172,900	3,400	55,900
17年11月合計	213,900	261,400	3,400	84,400

山原商会、最新鋭の浮上自動油回収機を導入 環境保全取り組む

(山口)山原商会(本社=山口県宇部市、山原一紀社長)は10月29日、丸八製の浮上自動油回収機グリスバキューマシステムを導入した。

同機は分離槽に水中ポンプを設置して浮上油を回収。本体内部で再分離させて廃油のみを簡単に取り出すこと出来る。さらに汚れの少ない水に浄化して排出が可能だ。山原社長は「リサイクルする工程で発生する産廃物を如何に少なくするかも大切な業務だ。これからも環境保全に取り組んでいく」と語る。

同社は金属スクラップ全般のリサイクルを手掛けており、月間扱い数量は約5,000ト(代納含む)を誇る。環境保全に取り組む一方では、工場見学を受け入れ、地元のプロサッカーチームのスポンサーに加盟するなどリサイクルの周知や地域発展にも努めている。



最新鋭の浮上自動油回収機